

# MONTO

岩手県立大学総合政策学部ニュース●第18号 2007.10.27

《総合政策学部 HP》 <http://www-poly.iwate-pu.ac.jp/>

## 特集●実習を究める



### CONTENTS

特集●実習を究める

おじゃまします

並河ゼミ／窪ゼミ

New Intelligence

田中信孝教授／山本 健講師

見市 建講師

就職支援対策

第十期生の入学式

オープンキャンパス

北京城市学院視察団 来訪

風のモント達

数理の世界

住宅ローンの返済方式：元金均等返済方式

アイーナキャンパス 公開講座スケジュール

キャンパスの景観

「野鳥の聖地」

# 特集 ● 実習を究める

総合政策学部で「実習」？ 文系の学部で実習とはイメージが湧かないかも知れませんが、今年度からすべての学生が実習を履修することになりました。ここでは新たに開講した実習を中心に、その取組を紹介します。

## 実習のしくみ

総合政策学部では平成十七年度入学生から適用される新カリキュラムの一環として、本年度より行政・経営コースに実習科目（八科目）を開講しました。これによりすでに実習が開講されていた環境・地域コースとあわせて、すべての学生が実習科目を受講することとなりました。

新カリキュラムでは、行政・経営コースの学生は三年次から卒業まで、A群、B群の各四つの実習科目から、それぞれ二単位（一科目）以上、かつ合計で六単位（三科目）以上の単位の修得が必要となります。

また、どちらのコースからでも、「社会調査士」の資格取得が可能になりました。なお資格の取得に際しては、社会調査士資格認定機構の定める所定の単位修得が必要です。

行政・経営コースにおける実習科目の設置により、本学の研究教育の特色の一つである「地域に根ざした実学・実践的研究教育活動」の一層の充実が実現しました。実習科目の受講を通じて修得した知識や技法が卒業研究や卒業後の就業先等で活かされることを期待しています。

（学部教務委員会）

### 【行政・経営コース】

#### A群

- ・政策課題実習
- ・社会調査実習
- ・経済学実習
- ・法学実習

#### B群

- ・シミュレーション技法実習
- ・経営分析実習
- ・多変量解析実習
- ・ゲーム理論実習

## 政策課題実習

政策課題実習は、自治体の政策課題について、現地に足を運び見聞したことに基づき具体的に分析し、その解決策を考える実習として、今年度前期から始まった新しい科目です。今回協力いただいた自治体は盛岡市、滝沢村および田野畑村の三自治体です。盛岡市は都市計画を、滝沢村は総合計画を、そして田野畑村は協働型のまちづくりをテーマに設定しました。

履修した学生を四つの班に分け、班単位で実習を行いました。まず班ごとに各自治体について文献やインターネットを利用した調査を行い、その結果をワークシヨップ形式で整理しました。次に、それぞれの自治体へ行き、職員の方に案内していただき、現地で問題になっている事柄について説明を受けました。さらにそれぞれのテーマについて、自治体における取り組みを具体的に説明していただきました。履修した学生からは文献調査で描いたイメージと、現地を見て職員から聞いた実際の政策内容とが異なることに驚きの声があがりました。そして現地で見聞したことに基づき、もう一度対象自治体の現状と課題およびその解決策について各班で考え、それらを報告書にまとめるといふ作業を三つの自治体を対象に行いました。

七月二五日には盛岡市のプラザおでってで成果発表会を行いました。



自治体職員へのプレゼンテーション

ここでは三つの自治体の実習を通して得た知識や経験を踏まえて、自治体の政策課題とその解決策について発表しました。発表会の後半のパネルディスカッションには各自治体の職員の方も参加いただき、実習に対する講評や自治体と学生の連帯などについて議論しました。自治体の職員からは「学生の皆さんも提案だけにとどめず、今後も関わり続けてほしい」という意見が出されました。

実習で自治体職員や地元の人たちと交流し、政策について考えた体験は、協働型まちづくりの重要さを身につけ、また公務員志望の学生にとっては貴重な経験になったと思います。

（担当／田島平伸教授）

## 経営分析実習

大都市圏における景気回復とは対照的に、岩手県では引き続き厳しい経済情勢が続く、とりわけ全就業者の九割を占める中小企業において不況からの脱却に苦慮しているといわれています。地域経済の停滞は就業希望者の受け皿の縮小につながり、能力に優れ、地域に対する愛着も強い若者たちを県内に引き止めることが難しくなったといわれています。県立大学でも、「できることならば県内や近県で就職したい」という希望を持つ学生が大半を占めているにもかかわらず、県内にとどまっているのは全体の四割に満たないという現状があります。



アドバイザーとのミーティング

このような背景から、特に経営改善意欲の高い企業に対して効果的な経営指導を行い、経営革新を強く支援すること  
で若者の就業機会の拡大を図り、  
一方でこの経営指導・支援のプロセスに県立大学の学生を参加させ地域の産業・経済や職業に対する理解を深めてもらう

## おごやまじまじ 並河良一ゼミ



ポプリが香る研究室は自由な意見交換の場所

「産業に関わる」という共通項はあるものの、テーマ選択は学生の自主性を尊重する並河教授のゼミ。所属する越場祥吾さん、成田君太さん、有原せい子さん、津田桃子さん、松尾樹さんの四年生五人は、大型店と商店街の関係から映画館の立地変化、工業用水量の変化要因に道の駅の設置距離とその機能、レジ袋の削減効果など、すでに各人各様のテーマを決定。経済学や産業構造分析等々多彩な手法を用いた研究活動をスタートさせている。

月一回の演習では互いの進捗状況を報告し、厳しくストイックに卒論一筋が当ゼミの特徴」と並河教授は言うが、研究室にはホフリのいい香りが漂い、各人もリラックとした表情。この香り効果も相まってか時に最新芸能情報について話が及ぶこともあるが、柔軟な意見交換の機会には各人の発想や知見を広げるにも貢献。松尾さんは「このゼミに来て製造業について興味があきました」と話し、「厳しさと優しさが共存した雰囲気」と成田さんが言葉を添える。

「卒論は結果こそが重視されるが、着地点がわからない面白さも感じている」と並河教授。プロセッサも含め、どんな研究成果が出てくるかが楽しみである。

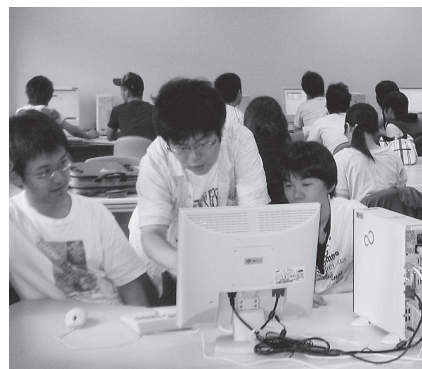
ことよって、岩手県の将来を担う人材の育成につなげたいという希望が高まりました。「経営分析実習」はこうした地元企業や経済界からの要請と力強い支援体制のもとで、産学官が一体となって地域の問題点の解決方法を模索する試みとして、参加企業七社と三十一名の履修学生を中心にこの四月にスタートしました。

四名から五名のグループに分かれて各企業を担当し、各グループには企業経営を熟知し豊富な経験とノウハウを誇る企業経営の経験者や、プロの経営コンサルタントを一名ずつアドバイザーに迎えて、経営実務の理解からコンサルテーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーションといったスキルの習得に至るまで、懇切丁寧な指導をいただきました。参加企業の経営者のみならずからは、参加月間にわたって企業訪問やメールなどを通じて、時間と手間を惜しまずに質疑への応答や情報・資料の提供をいただくことができました。七月末にグループごとで作成した戦略案のプレゼンテーションを行い、協力をいただいた関係者のみならず活動の成果を報告することができ、たいへん高い評価をいただきました。

(担当/山本健 講師)

## 社会調査実習

本実習はアンケートなどの量的調査を対象とし、テーマ設定から調査結果の報告書への取りまとめまでの作業を、担当教員のチェックを受けながら、学生同士の議論によって進めます。社会調査法Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱの単位取得が前提です。社会調査士標準カリキュラムの認定を受けており、行政・経営コースの社会調査



調査結果を議論する学生達

士志望者にとっては必修です。

実習は四、五人程度のグループで行います。グループ編成は、所属ゼミの専攻(行政、法律、経営、経済など)をある程度踏まえて行います。今年度は「学生の映画館選択」「学生の衣料費支出」「学内全面禁煙化」に対する学生の意識、「鉄道新駅の利用状況」の四テーマで行いました。調査をきちんと企画・実施できるようにするには、経験を積む必要があります。本実習はその最初の機会を提供するものです。「調査の質の向上」という社会調査士の使命を担う上での、調査分析能力の見極めがまず必要です。役に立つ結果を伴う調査を目指すのは、経験を積んでから行うべきことです。

実習成果は、調査結果の目先の有用性よりも、社会調査法や統計学などの関連科目での学習内容を生かし、考えながら実習に取り組んだかどうかを重視します。実習の各段階の作業では、学生と教員の両者が納得いくまで、十分に時間をかけてもらいます。毎回二時間の枠内だけでは成果は出ません。調査分析能力の見極めに加え、プロジェクト運営の経験も本実習の狙いの一つです。

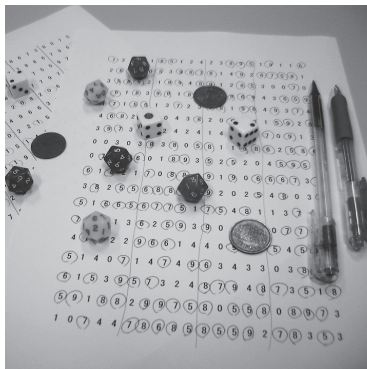
(担当/堀籠義裕 講師)

## シミュレーション技法実習

本実習では、生産管理、在庫管理、輸送計画などの、ビジネス・プランニングに関する問題を主な題材として、確率現象を扱うシミュレーション(モンテカルロ法)の基礎を理解します。

今日、シミュレーションではコンピュータの使用が一般的です。専門のソフトウェアも比較的容易に入手でき、中にはコンピュータに任せている作業の内容やその意味を知らずとも、適当な数字を入力すれば結果らしきアウトプットが得られるものもあります。いわば高度なソフトウェアが気軽に使えるようになり、シミュレーションの誤用や安易な使用の危険性が高まりつつあるといえます。

問題解決のあり方を学ぶ総合政策学部では、そのための手法や考え方を正しく理解し身につけることが重要です。シミュレーションについても、計算の仕組みや、なぜそのような計算方法なのかを理解する必要があります。本実習ではその手段として、サイコロ、コイン、乱数表などを主に使います。専門のソフトウェア



シミュレーションの道具

は、マニュアルを読めばすぐ使えること、操作方法を覚えてもいざれ陳腐化することから使いません。ただし、実習作業の都合上、汎用の表計算ソフトウェアは若干使います。身近な道具と、持ち前の思考力・集中力で、問題解決の一手法としてのシミュレーションの本質に触れてみましょう。

(担当/堀籠義裕 講師)

## 地域調査実習

地域調査実習は地域政策講座の学生が履修する実習であり、地域調査実習Ⅰ・Ⅱの三段階に分かれています。地域調査実習Ⅰでは、調査対象者の選び方や調査票作成の方法、調査後の回答の整理、基本的な分析方法といった調査票調査に必要な技術を習得します。この授業の特徴は、自分たちの関心のあるテーマに沿って調査票を作成し、学内の学生に対して実査を行い、回答してもらった調査データをSPSSという統計分析ソフトを利用して分析する、という点にあります。

地域調査実習Ⅱ、Ⅲでは「農村/まちづくり」、「防災/交通」、「農業/食」等の班に分かれて、現実のフィールドの中で調査を行うことに



調査の打ち合わせ

## 窪 幸治ゼミ

おじやまします



民法と社会の関わりを  
多彩な角度から研究

「卒論はすでに確立された理論を自分なりにまとめていけば十分と思っていますが、今の四年生はみな新しいもの好き。タイムリーなテーマが揃ってますね」と窪講師。紛争解決の手法として注目を集めるADR(裁判外紛争解決制度)から成年後見制度、ジェンダーに注目した家族法の検証。いずれも社会で話題のテーマを口にするゼミ生たち。民法への関心と社会問題を的確に捉える視点で、窪講師いわく「まさにベストメンバー」の五人は、工藤大さん、藤田隆史さん、藤根卓也さん、早坂愛美さん、山田菜々子さんの面々である。

卒論の進捗状況の報告は「他人の目が入ることで視点も広がるから」と全員揃った場で行うのが窪ゼミスタイル。しかもベストメンバー五人が揃った研究室は、打てば響くといった活発な雰囲気。その会話は時に窪講師をも巻き込み展開するが「テーマのキャッチボールが出来る、非常にいい環境」なのだという。

「先生はともフレンドリーで講義の授業中とは全然違います」という早坂さんに笑顔で「うなずく四人。しかし「後期はみっちり絞っていきませう」との窪講師の言葉には、えっといううめき声が上がった。

よって、調査手法を学んでいきます。たとえば、現在の四年生の実習では、「食品総合研究所に関する調査研究」、「サイクルトレインに関する調査」、「山間地域における農家の生産・生活と意識」といったテーマで実習を行いました。地域調査実習Ⅱでは、インタビュ調査に関する技法を習得し、実習Ⅲではその結果を分析し、報告書にまとめるという作業を行います。この中で、現実社会の中で調査を実施するのに必要なさまざまな知識—たとえば、調査のアンケートのとり方、質問の準備の仕方、調査実施時の相手との距離の保ち方、御礼状の書き方、当該地域の特色や調査対象者の特徴など—もあわせて学習します。

(担当/地域政策講座)

## 環境調査実習

環境政策講座に所属する三年生が履修するのが、環境調査実習Ⅰ、Ⅱおよび地域環境調査実習です。これらの実習では自然環境の調査や分析を行い、調査方法や調査計画の立案、データ整理・解析・まとめについて学ぶものです。調査の多くは野外に出掛けて行います。

環境調査実習Ⅰ、Ⅱでは地形図の読図や野鳥・小型哺乳類・昆虫の調査、カタクリ個体群や森林植生の調査、水系の水質調査などさまざまな自然環境の調査方法を学ぶために野外調査が行われます。

後期の地域環境調査実習では、それまで学んだものに加えて、人びとの暮らしと自然環境との関わりについても調査します。これらの実習によって自然をさまざまな視点から捉えることができるようになります。これだけ広範な範囲の自然環境調査につ



森林植生の調査に挑む

いてまとめて学ぶことができる機会には他ではあまりないでしょう。

夏休みには八幡平地区において合宿形式での環境調査実習Ⅱが行われました。朝早くから夜遅くまでのハードスケジュールでしたが、この合宿で学生同士また学生と教員の絆が深まります。

(担当/環境政策講座)

## 後期の実習

ここで紹介したものは前期に開講されたものを中心とします。後期には行政・経営コースでは経済学実習、多変量解析実習、ゲーム理論実習、法学実習が、環境・地域コースでは地域調査実習Ⅱ(地域政策講座)、地域環境調査実習(環境政策講座)が開講されます。

いずれの実習でもこれまで授業で学んだことを基に、社会現象やその仕組み、地域の実態、自然環境などについて学生自らの手で作業し、考え、結果をまとめていく過程を通して、多くのことを学んでいくものです。総合政策学部では授業と実習の両輪でそれぞれの分野への理解を深めていくことができます。

## 新 教員紹介

N E W I n t e l l i g e n c e

# 今は税のあり方や負担構造を見直す時 国と地方行財政の望ましい道を探る



## 田中信孝教授

### ◆プロフィール

経済学修士で、財政学・地方財政論・金融論が専門分野。参議院常任委員会(大蔵委員会調査室)調査員や国立国会図書館調査及び立法考査局(財政金融課)調査員を経て、89年より八戸大助教授に。18年間にわたり教鞭を執る一方、八戸市事務事業検討会議会長なども歴任。日本財政学会や金融学会に所属し、財政と金融に関する研究者として活躍。

ローガンとして、「三位一体改革」が行われました。しかし現実には、地方の行政サービスの負担は増えたのに対し税源移譲は抑えられ、それを上回る補助金と交付税のカットが行われた。そして、自主財源の確保を目指すにしても、経済力の弱い自治体では税収は上がらず、結果として自治体間格差も広がる一方なのです。

実は構造改革路線自体も様々な紆余曲折を経たもの。その一つが八七年に起こった「岩手ショック」と呼ばれた出来事。当時の中曽根政権は、財政赤字を圧縮するため「売上税」の導入を目指した。それは選挙公約に背きかねない大型間接税であったことから、参院石手選挙区補選で与党候補が野党候補に大敗し、導入が見送られたという。「そのため国は八〇年代初めからの「増税なき財政再建」をさらに強く進めざるを得なくなり、歳出をカットし続けてきた」と田中教授。そして九〇年代には市場原理の考え方が強まり、「自立」と「自己責任」の名目のもと、規制緩和や社会保障への国家の負担を少なくする「小さな政府」化がさらに進んだ。

「社会の変容はもはや時代の流れ。しかし地方からの人材の流出問題や中山間地の環境保全など、民間ではなく財政を通して公的領域でしか解決できない問題があることも事実です。国土の均衡ある発展を目指すためには、税のあり方や負担構造を見直すべき。今は専門家の間でも市場原理を支持する声が多勢というが、田中教授は別の視点で国政の行方を見守っているのだ。

講義では、レスポンスカードを使った質疑応答を展開している田中教授。「学生は話もよく聞いているし文章能力も高い」と評価する一方で、カードではなく会話による積極的な授業参加が望ましいとも。今秋から始まったゼミでは学生各自の出身市町村の財政分析を手がかりに、地域理解と問題の考察を進めている。「身近な問題に絞ることで積極性も醸成されていくはず」と期待する。

「広範な情報から問題を発見し、解決を目指す環境が提供されているのがこの学部。受け身をやめて自らの足で歩くという積極性があれば、多くの成果をつかみ取れるはずだ」。

## 企業経営を肌で感じて 岩手の明日を担う人材に育て欲しい

### 山本 健 講師



#### ◆プロフィール

博士(経済学)。三洋証券株式会社勤務を経て'01年に慶應ビジネススクール修士課程修了(MBA取得)。その後、専攻を経済学に変えて'06年に横浜国立大学より博士(経済学)の学位を授与される。実務経験を活かしてコーポレート・ファイナンスの実証研究を精力的に行い、国内外の学会で成果を発表している。

総合政策学部には学生を地元の中小企業に派遣して、企業がどのような経営課題に直面しているのか、その打開のためにはどのような解決策が必要なのかを経営コンサルタントの視点で調査分析・提案を行う『経営分析実習』という授業が設けられている。前岩手県政策アドバイザーでNTTドコモの社長・会長を務めた大星公二氏の全面的なバックアップのもとで、岩手県立大学が全国で初めて学生の参加による中小企業支援事業を大学の正規カリキュラムとして導入した。このプロジェクト、企画から実行に至るまで協力を仰いだ県庁、中小企業支援機関と大学との間を忙しく駆け回り全国でも初の試みを実現に導いたの

が、この四月に県立大学に赴任された山本健講師。証券会社勤務を経て三十歳代半ばから大学院に進学した異色の経歴の持ち主で、修士課程では経営学を、博士課程では経済学を専攻し、経済学と経営学の中間領域である「コーポレート・ファイナンス」を主な研究対象としている。

『経営分析実習』では実学的な視点で現実の経営をありのままに見て、複雑多岐にわたる情報やデータの中から、何が問題の本質であり、その解決のためには誰によるどのような行動が必要とされるのかを徹底的に検討し議論することが求められる。『経営分析実習』では経営者や経営コンサルタントと協同して作業を進めていきます。学生のみならずは彼らの立場になりきって彼らと同じ視点で物事を考え、判断してもらいたいと思います」と山本講師はいう。人の立場にたつて考え、行動することがジェネラリストとして社会で活躍していく上で不可欠な資質だという。

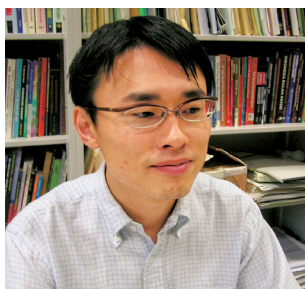
『経営分析実習』には、学生に実践的な経営教育の場を提供するという目的と同時に、地元企業の経営支援を行い、地域経済の活性化を図ることも期待されている。学生が作成した解決案に対して「直ちに自社の経営革新に役立てたい」、「さらに具体的な提案を要求したい」という意向が寄せられており、「こうした企業のニーズに的確に応えられるかどうか重要です」という。理工系学部では盛んに行われている産学連携だが、経営管理手法に代表されるソフト面での連携事例は数少なく、ここでも先駆的な取り組みが期待されている。

山本講師はこのほかに講義授業として『経営財務』を担当している。財務は経営系の専門科目の中でも数学を多用する嫌われ科目の一つ。とはいえ、「経営戦略やマーケティングはもとより、行政サービスや公共事業においても採算や経済性が検討されずには物事が決定されることはありません。社会に出るうえで必要不可欠なスキル要件だと思つて、より多くの学生に学んでもらいたい」と話す。

## NEW Intelligence

## イスラームの思想と行動を調査・研究 岩手の「内なる国際化」も伝えたい

### 見市 建 講師



#### ◆プロフィール

博士(政治学)。学生時代に参加したインドネシア交流セミナーをきっかけに研究者の道へ。神戸大大学院時代にはインドネシア政府の奨学生として民主化移行期のインドネシアを実地調査し、シンガポール日本国大使館専門調査員を経て県立大へ。東南アジア諸国におけるイスラーム政治運動に関する専門家であり、著書も多い。

く「イスラーム」という表現を使う。単純にイスラームの方が原語に近いことも理由だが、本意はイスラーム教が持つ社会的・政治的役割の大きさ。「イスラームの教えは商法や財産相続、婚姻など生活全般をも規定しているため、必ずしもキリスト教や仏教などと同じ視点で語れない」のである。その特性ゆえイスラームは各地の慣習や文化とも深く結びつき、国家の成り立ちにも影響を与えてきた。

そんなイスラーム社会が今、大きく揺れ動いている。インドネシアでは九七年に発生したアジア経済通貨危機をきっかけに民主化運動が起こり、三十年以上続いていたスハルト体制が崩壊。これによりイスラーム過激派の活動も活発・先鋭化し、各地で暴力的な事件が頻発するようになった。その最中に政府の留学生として滞在し、その後も現地を度々訪れている見市講師は、活動の根拠にある社会事情に注目。「九八年に起きたキリスト教徒とイスラーム教徒の対立も移民と先住民間の対立の側面があるように、紛争の原因は複雑なもの。むしろいろいろなか状況に対して『イスラーム』を理由にする社会的・経済的背景を見極めることが大事」と話す。

今やインドネシアを始め東南アジアの国々は観光や経済面において東北とも密接に関わり、特に漁業はインドネシアの労働力が支えているといつても過言ではない状況にあるという。私たちのすぐそばで着実に進行している「内なる国際化」に、見市講師は「もはや遠い外国の話ではないということを理解してほしい」と、講義では東南アジアで盛んな黒魔術・白魔術から、あのデヴィ夫人(!)にまつわる話題までも展開し、学生の興味を喚起。今後は前述の漁業の実態に関しても、一緒に調査をしてみたいと考えている。

「これからの時代は語学によるコミュニケーション以上に、違う国や文化、そして人々の考え方について想像できる能力が重要になっていくはず。それは岩手に住んでいてもなお必要な資質であるということを講義や演習を通して伝え、身近な問題として考えるきっかけを作っていくたいと考えています」。

## 就職支援対策

### 【就職支援室の開設】

就職活動は早く始めたほうが良い、面接は慣れた、などと就職対策に関する情報は、怪しいものから非常に的を射たもので数多く流れています。しかし、実際に就職とは、そもそも職業とは？と考えるとなかなか具体的にイメージできない、いや



DVDや資料が揃う就職支援室

考えたくないのかも、という非常に重い問題でもあるのです。このような学生たちの悩みに対して少しでも情報とを考え、就職委員会では、十月一日に就職支援室を学部棟二〇一演習室に開設しました。

同室では、DVDを含め、就職関連の資料を置き、随時閲覧できるようにするほか、就職相談も行いたいと考えています。新聞記事のデータベース、企業のデータベースなども順次整備していきますが、就職に関することで悩んでいる学生は気軽に訪れることのできる部屋にしたいと思っています。企業の取り組みや

社会問題についての情報を得つつ、職に関する意識を見直す、また自分探しのきっかけにするなど、どんなに活用してください。

### 【公務員対策講座】

就職支援対策の一環として「公務員試験対策講座」を九月から実施します。本学部の教員をはじめ様々な方に協力していただき、一人でも多くの学生が公務員になれるよう支援していきたいと考えています。第一回目は「経済」と「作文の書き方」についての講座を行いました。公務員試験必須の分野でもあり、多くの受講者がありました。他の科目についてもできるだけ定期的に関きたいと考えています。ただ、公務員対策にはこれで終わりというものはなく、継続的な学習が必要です。この講座だけでなく、様々な学習の機会を自らが作るという姿勢が大切です。そして、良い努力は必ず良い結果を導きます。

(就職委員会)



熱心に取り組む講座の様子

## 第十期生の入学式

今春四月四日(水)の午後、岩手県立大学の入学式が盛岡市民文化ホール(マリオス)大ホールで挙行されました。入学式はこれまで滝沢キャンパス大講堂で開催していたが、今年からは場所を新たに設けられました。学部としてはちょうど十期目の入学式となりました。

早春快晴の天気のもと、全学六三八名、うち総合政策学部一〇一名及び総合政策研究科大学院八名の計一〇九名が多数の父兄らとともに、晴れやかに緊張した面持ちで参集しました。学長からはクローバリーゼーションが進むなか、実学・実践による地域貢献が期待されていること、また温かい人間性を培い、視野を広め、英語スピーチを勉強し、積極的かつ独創的にチャレンジすべきだ、との訓辞がありました。



晴れやかな入学式から早くも半年が過ぎ、新入生は大学生活にも慣れ、勉学やスポーツ、遊びやバイトに精出していることと思われまます。初心を忘れず、学長の訓辞を反芻しながら社会貢献の道筋を究めて欲しいものです。

## オープンキャンパス

七月一日(日)にオープンキャンパスが開催されました。総合政策学部では午前十時から、学部棟施設自由見学や入試相談が始まりました。また、多数の学生有志による企画が立てられ、「学生によるよろず相談」「ビデオによる学部紹介」「サークル活動展示」なども併せて行われました。

午後は大生全体の説明会があり、学長講演や総合政策学部の紹介に、高校生は熱心に耳を傾けていました。説明会会場はほぼ満室となり、その中には、昨年度のウインターセッションに参加した高校生や、今年、総合政策学部への受験を希望している高校生も参加していたようです。

その後、学部棟では研究室ツアーが行われました。「経済経営」、「環境政策」、「地域環境」、「アラカルト」コースが設定され、学生有志が高校生をそれぞれの研究室に案内しました。研究室ツアーで先生方と直接話すことにより、高校生は全体的な説明会では得られない貴重な体験をし、興味深い情報を得ることができたようです。先生方と学生有志の皆さんの協力で、有意義なオープンキャンパスとなりました。



## 北京城市学院視察団 来訪

北京城市学院の一行九名が、本年五月二十二日から三日間の日程で本学を訪れ、総合政策学部と社会福祉学部の視察を行いました。同学院の本学来訪は去る十二月に続いて二度目で、今回は次代を担う准教授・講師という若手教員がメンバーでした。

同学院は中国で最初の四年制私立大学です。十二の学部からなり、二万七千人の学生を擁します。時代のニーズに合わせて学部の新設を重ね、国家が求める人材を育成してきたといえます。九九%を超す高い就職率がそのことを物語っています。



視察では、教員との意見交換や、先生方のご協力のもと、六時限分の授業参観を行いました。また、学生との意見交換会は、総合政策学部に対するイメージや可能性について、学生の生の声を聞く機会となりました。

視察を通して、総合政策学部の学際性や現場重視のスタンスに、強い関心を示していました。この交流をさらに発展させていきたいものです。

最後に、通訳していただいたティー先生、大学院生の楚さんとイエンさん、に謝辞。

# 風のモント達

環境問題も国際貢献も大事なテーマ。  
やりたいこと、たくさんあるんです

3年 三本木絵未さん

今年3月、仲間呼びかけ県内の大学生を中心にした団体「TEAM GOGO! 2007岩手」を結成した三本木絵未さん。地球温暖化防止などをテーマに、6月には地球環境問題がテーマのドキュメンタリー映画上映会、そしてNGO「MAKE THE HEAVEN」の事業組織「TEAM GOGO! 2007」が製作したタブロイド新聞「豪快な号外・笑い楽しみながら30秒で世界を変えちゃう新聞」を県内で配布。さらに全国で行われるキャンドルナイトの岩手開催、そのマップ作成と、フルスロットルで活動した。

「でも、小学校のときは周りに気持ちを閉ざしている子どもでした」。自分と格闘するなかで三本木さんが出会ったのは、たくさんの仲間。そし



て中学時代には国際協力NPO「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTJC)」福島支部を立ち上げた。「あの時の頑張り、嬉しさが原動力になっているんです」と微笑む。

その情熱とパワーは現在進行形。「TEAM GOGO!」では青森県六ヶ所村の核施設に関する活動を展開し、県立大で結成したプロジェクトチーム「DASH」では、いじめについて考えるワークショップも企画。「環境問題は一人が何かを始めないと始まらない」と、マイ箸・マイ水筒などのエコ生活も実践。「環境にいいものは体にもいい」とPRする。

ゼミは地域政策関係を希望するが、「実はやりたいことが多すぎて絞れない」とも。社会活動も将来の夢も、これから先の楽しみだ。

意欲があればどんなことも学べる環境。  
好奇心とチャレンジ精神が未来を拓く

3年 加藤俊輔さん

小学校の時、両親に連れられて行った最高裁判所。「そこで見た裁判官の黒い衣装が格好いいと思った」と笑う加藤俊輔さん。憧れは時とともに醸成され、法律への関心に変化した。現在は行政・経営コースに籍を置き、斎藤千加子准教授のゼミで行政法を研究する。

「ゴミ問題からロケットまでなんて



言われるぐらい行政法の範疇は広い。でも、この学部なら環境問題も学べるし、経済動向について知こともできる。自分次第でどんな勉強もできるんです」。言葉一つひとつから、学問への好奇心がひしひし伝わってくる。

そんな加藤さんの好奇心は、学問以外にも向かう。毎週土曜は地元テレビ局でカメラマンアシスタントのバイト。「色々な情報が即座にキャッチできるし報道の仕事も体験できる。生放送の緊張感も僕にとっては楽しいこと」。一方、大学では吹奏楽サークルに所属し、トランペッターとして大学祭やイベントでジャズ・セッションも行い、「難しいフュージョンがハマった時は最高!」と笑う。好きなミュージシャンはサッチモやマイルス・デイビス、音楽鑑賞は今もレコード派で「針を落とした時のチチチという音が好き」と、かなりのマニアックぶりも覗かせる。

将来の夢は国税専門官で「仕事の範囲の大きさに魅力を感じた」と加藤さん。旺盛な好奇心とチャレンジ精神は、社会でもきっと役立つことだろう。

## 数理の世界

### 住宅ローンの返済方法： 元金均等返済方式 Tee KianHeng

住宅ローンなどのローンの返済には元金均等返済方式と元利均等返済方式がある。今回は元金均等返済方式について紹介する。1千万円を借りて30年(360ヶ月)かけて返済することを考える。金利は年率5%(毎月0.41667%となる)とする。

表は返済の推移の一部を示してある。1千万円を360ヶ月で割ると毎月の元金返済は27,778円である。元金均等返済方式はこの部分は毎回一定であることを意味する。そして毎月の利息は毎月の元金返済を差し引いた金額に金利をかけることとなる。当初の借入金(借りたお金の総額)をX円、毎月の金利をrとして、1ヶ月目の利息は元金返済がないので $X \times r = 1000 \times 0.41667\% = 41,667$ 円となる。2ヶ月目は最初の月で27,778円を返済したので、(X-1回目の元金返済) $\times r = (10,000,000 - 27,778) \times 0.41667\% = 9,972,222$ (借入残高という) $\times 0.41667\% = 41,551$ 円となる。毎月の返済総額は元金返済+

利息分なので、それぞれ69,445円と69,329円となる。

グラフは元金返済・利息払い・毎月の返済総額を示してあり、利息払いは期を迫うことによって減少すること、最後の返済はほぼ元金の毎月返済となっていることがわかる。このように、元金均等返済方式とは最初に返済すべき額が大きく、時間が経てば少なくなる方式である。

さて、この方式である回の支払利息はいくらか、あるいは利息を含め総額いくら返済すべきかについて簡単に計算できる。まず、支払利息について上述した計算結果をまとめるとt回目の利息は $[X - X/n \times (t-1)] \times r$ となる。X/nは元金の毎月の返済分、nは借入期間である。t回目の返済総額は $X/n + [X - X/n \times (t-1)] \times r$ となる。各自で確認してほしい。

利息の支払総額はある回の利息計算 $[X - X/n \times (t-1)] \times r$ について借入期間の合計によって得られる。式で表すと $\sum_{t=1}^n [X - X/n \times (t-1)] \times r = \sum_{t=1}^n (X/n) [n - (t-1)] \times r$ となり、X/nとrは定数なので、 $(X/n) \times r \sum_{t=1}^n [n - (t-1)]$ と整理することができる。そこで、 $\Sigma$ の項は等差級数の和であることがわかり、 $\sum_{t=1}^n [n - (t-1)] = \frac{(n+1) \times n}{2}$ になる。よって利息の支払総額は $(X/n) \times r \times \frac{(n+1) \times n}{2}$ となる。1000万円を30年間借りるときの利息の支払い総額は $27,778 \times 0.41667\% \times (360+1) \times 360 / 2 = 7,520,954$ 円となり、支払総額は17,520,954円(約1,750万円)となる。上述のように等差の公式を用いると利息の支払総額などが簡単に求めることができる。

(本学部准教授・計量経済学)

表) 元金均等返済方式の返済の推移

(単位:円)	毎月の元金返済	借入残高	利息	返済額
1ヶ月目	27,778	10,000,000	41,667	69,445
2ヶ月目	27,778	9,972,222	41,551	69,329
...	...	...	...	...
359ヶ月目	27,778	55,476	231	28,009
360ヶ月目	27,778	27,698	115	27,893

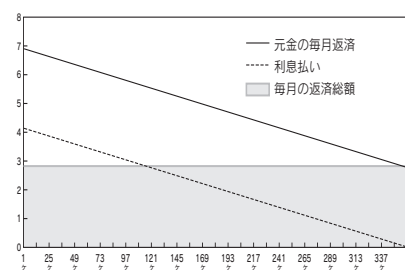


図) 元金の毎月返済・利息払い・毎月の返済総額

## アイーナ キャンパス 公開講座スケジュール

総合政策学部ではアイーナキャンパスを拠点として、日ごろの研究活動の成果を広く県民のみならず人に公開し、社会人や中高生の学習要求の高まりに応える目的で公開講座「総合政策セミナー in アイーナ」を開催しています。

本年度も昨年に引き続き九月から、森林生態系の保全育成の重要性について体験を通して学が「間伐運動会」、動植物の生態系・水環境を実地に学が「おもしろ自然学」といった体験学習型のプログラムを実施し好評を収めました。今後は十一月にインターネットを活用した地方財政分析講座「自治体のお財布をのぞいてみよう」、十二月には「入会」の歴史を振り返りながら農山村に暮らす住民の生活権を考える「岩手の森と暮らし(仮題)」、さらに岩手の森林保全に関するセミナーを計画して、参加希望者を募集いたします。

実施スケジュール、プログラムの内容についてのお問い合わせはお電話にて、岩手県立大学アイーナキャンパス事務室(019-1606-1770)までお寄せください。

### キャンパスの 景観③

野鳥の聖地

平塚明



の池のこと。だから普段は空でよいのだが、本学の第一調整池だけは常に水が満ちている(第二回参照)。その上、池の縁には植物が茂っている。当初の景観計画では、レンギョウやアジサイなど、数種の園芸植物が植えられているだけだった。ほうっておけば、外からさまざまな

野生植物が入り込んでくる。最初は刈り取っていたが、ある年からそれをやめた。結果が現在の豊かな水辺植生である。見る人によっては、丈高い草が茫々と生えているだけとの印象だろうが、なだらかな水辺に成立した厚い植生帯は多様な生物の拠り所となる。実際、この人工池には信じられないほど多くの鳥がやってくる。ざっと数えても38種類。しかも、この中には県の絶滅危惧生物に指定されている鳥が8種類も含まれている。飛んできてくれるだけでなく、営巣し繁殖もしてい

る。この池がバードウォッチャーの名所となっていること、学内では意外と知られていない。鳥が種子を運んできて、植物の顔ぶれもさらに賑やかになっていく。

ただし、ちょっと困ったこともある。污水处理施設から出てきた水を、水辺植物の浄化作用でさらにきれいにして学外に排出するはずだったのだが、実際は逆になることもあるらしい。植物が茂りすぎ、枯れて倒れたものが池の底に泥となって溜まっている。これがいわゆる富栄養化をもたらし、今年のように高温の夏にはアオコが発生する。池の魚にとっても住みづらい環境になっている。これからは緑や生物多様性を維持しながら、池の新陳代謝も図るような手を加えていく必要があるだろう。

(クイズの答えは6。その内の二つは野球場と陸上競技場。いざとなれば排水口を閉じ、調整池となるように設計されている。)  
(本学部教授・植物生態学)

最初にクイズ。大学構内に調整池はいくつあるだろうか?(答えは最後に)  
調整池とは本来、洪水を防ぐため、開発面積に見合って造られる流出調整用

#### ●起業の勧め アイデア募集!

次号では特集として県内就職先を大学側から開拓するための「起業の勧め」を取り上げます。私ならこんな事がやりたい、あんな事をやって欲しい、というアイデアや期待を持っている学生がいましたら、思ったままの簡単なアイデア・期待でよいですから12月末までに編集部までお寄せ下さい。優れたアイデアについては次号特集に掲載します。

# MONTO

●【MONTO】岩手県立大学総合政策学部ニュース Iwate Prefectural University  
●第18号:2007年(平成19年)10月27日●発行:公立大学法人岩手県立大学総合政策学部  
〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52  
代表TEL019-694-2000 学部019-694-2700 FAX019-694-2701(学部事務室)  
印刷/株式会社社陵印刷 TEL019-641-8000

《MONTO WEB版》URL

[http://www-poly.iwate-pu.ac.jp/monto/index\\_monto.html](http://www-poly.iwate-pu.ac.jp/monto/index_monto.html)

\*岩手県立大学のホームページ <http://www.iwate-pu.ac.jp/> から

総合政策学部をクリックして、次に「学部機関紙MONTO」をクリックしてもアクセスできます。

#### ●編集後記

▼政治世界の変転が早い。日本は何に立脚して生きていくのか。学生はまず地力をつけるため「実習」から用意ドンスタート(ESL)▼目先の有用性のみ意識した提言や、○○の使い方のみの習得は、長期的には決して役に立ちません。実習担当の一人として気をつけたいと思います(堀籠)▼最近、天気や気候の心配ばかりしています。MONTOが発行される文化祭の時期は、爽やかなお天気であるとうれいと思っています⑤▼オーブンキャンパスやアイーナ講座、大学祭など高校生が参加できるものも用意しています。ぜひ気軽に大学まで遊びに来てください(な)

#### ●ご意見をお待ちしています

MONTOへの「ご意見・ご感想」の要望は、「総合政策学部広報・交流委員会」宛で左記の連絡先まで。よろしくお願いたします。

●編集スタッフ||由井正敏(編集責任者)、篠木幹子、堀籠義裕、島田直樹